林修先生と学ぶ「国消国産」講座

命を育むために最も大事な「食」
SDGsの観点でも、自分事として捉えていきたい

なぜ今？国消国産

世界の平和にも大切な「食」の安定

世界の紛争地域や自然災害の被災地で食料支援を行う「WFP」という国連機関が、2020年のノーベル平和賞を受賞しました。あらためて、食料の安定供給が、その国の安定や世界の平和にとっていかに大事であるかが示されました。受賞を報じるこちらの新聞記事にもあるように、世界の9人に1人が十分な食料を得られないといわれています。私たちは飢餓の実態を他人事のように捉えがちですが、自然災害や人口増加などによって、世界における食料の安定供給のリスクは、確実に高まっています。

世界食糧計画に平和賞
ノーベル賞「飢餓と闘う努力」

国連機関
国連世界食糧計画（WFP）

出典：朝日新聞（2020年10月10日付）
朝日新聞社に無断で転載することを禁じます（承諾番号21-0896）

食料を輸入することについて、環境面からも考える意識

例えば、同じ100円のレモンでも、米国産と国産では何が違うでしょうか？もちろん、味や品質も違いますが、米国産は1万キロ以上を大型船舶で、国産は数百キロをトラックで運ぶ、これにかかる輸送エネルギーや環境負荷が大きく異なります。食料を輸入するとはどういうことか、食料の安定という面だけではなく、環境面からも考える必要があります。

だから今！国消国産

SDGsの達成にもつながる「国消国産」

「国」民が必要とし「消」費する食料は、できるだけその「国」で生「産」していくという「国消国産」をすすめることは、食料を輸入に依存しないということにつながり、ひいては、食料の安全保障と持続可能な農業の促進を目標とするSDGsのゴール2「飢餓をゼロに」や、ゴール12「つくる責任 つかう責任」、ゴール13「気候変動に具体的な対策を」にも通じるものです。

ここがポイント！

1. 食料の安定は、世界の平和にもつながっていく
2. 食料の輸入について、食料の安定という面だけでなく、環境面も意識が必要
3. 「国消国産」で、SDGsの達成にも貢献

JAグループサポーター・林修

国消国産 こくしょうこくさん

耕そう、大地と地域のみらい。

EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN
JAグループ
テーマ営業出店パートナー
JAグループは、GREEN×EXPO 2027のFarm&Food Villageに出店します

©Expo 2027